

令和6年度全国学力・学習状況調査における
北九州市立 穴生 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

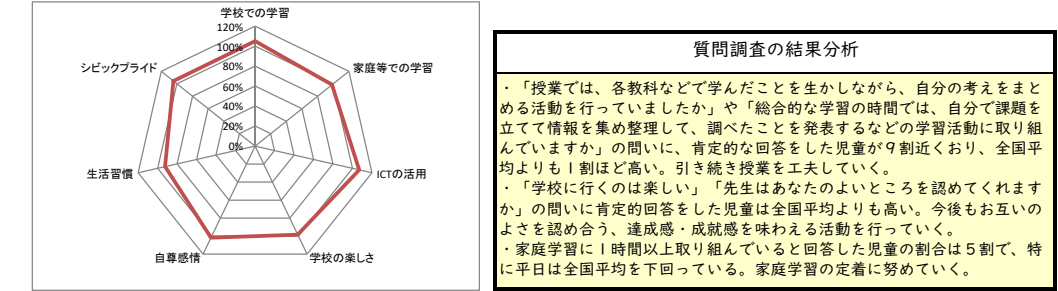
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力」に関する内容ともに、全国平均をやや上回っている。特に、「読むこと」に関する内容の正答率が高い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題」	上回っている
	努力が必要な問題	「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題」 「漢字を文の中て正しく使う問題」「目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」	

算数	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力」に関する内容ともに、全国平均をやや下回っている。特に、「変化と関係」の領域において課題が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「数量の関係を、□を用いた式に表す問題」「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題」	下回っている
	努力が必要な問題	「球の直径の長さど立方体の一边の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す問題」 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・学力アップタイムを活用し、基礎学力の定着を図る。（国語・算数）

・「穴生小学習スタンダード」を活用し、全校で同じ方向を向いて学習指導を行っていくとともに、各担任が「授業の振り返りシート」で自己評価をすること、授業改善を図っていく。特に、自分の考えを自分の言葉で書く活動の充実を図る。

・夏休み前や冬休み前に「学びチャレンジ週間」を設定し、補充・発展学習に取り組む。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・望ましい生活習慣や家庭学習について、学級活動の時間に見通しをもつ機会を設定したり、学校通信等で保護者へ啓発したりして、一層の充実を図る。特に、規則正しい生活を習慣付けるために「早寝早起き朝ごはん」を呼びかけていく。また、児童の継続的な取組を称賛して、自ら学ぶ意欲を高められるようにする。

・「家庭学習がんばり週間」を月1回設定して家庭学習の定着を図るとともに、児童の実態から取組を見直し、更なる充実を図る。